

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、持ち直している」

項目	前回（5年4月判断）	今回（5年7月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに持ち直している	持ち直している	

（注）5年7月判断は、前回4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、持ち直している。生産活動は、輸送機械が供給制約の緩和に伴い持ち直している一方、生産用機械が海外の設備投資需要の落ち着きから引き続き弱含んでいるなど、一進一退の状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回（5年4月判断）	今回（5年7月判断）	前回比較
----	------------	------------	------

個人消費	緩やかに持ち直している	持ち直している	
生産活動	一進一退の状況にある	一進一退の状況にある	
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	

設備投資	4年度は減少見込み	5年度は増加見込み	
企業収益	4年度は増益見込み	5年度は減益見込み	
企業の景況感	「下降」超幅が拡大	「下降」超幅が縮小	
住宅建設	前年を下回っている	前年を下回っている	
公共事業	前年度を下回っている	前年度を下回っている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「持ち直している」

スーパー販売は飲食料品が堅調となっており、前年を上回っている。百貨店販売は身の回り品等が好調となっており、前年を上回っている。コンビニエンスストア販売は米飯やカウンター商品が好調となっており、前年を上回っている。ドラッグストア販売は新規出店効果のほか、化粧品や飲食料品が好調となっており、前年を上回っている。ホームセンター販売はDIY関連や日用品などが低調となっていることから、前年を下回っている。家電大型専門店販売はテレビやパソコンなどが低調となっていることから、前年を下回っている。乗用車販売は半導体不足等の緩和から、前年を上回っている。旅行は国内旅行が緩やかに回復しつつある。このように、個人消費は、持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 全体の購買点数は減少しているものの、精肉や総菜で売上げを伸ばしている。節約意識の高まりから、値上げ幅の大きい商品や嗜好品は売行きが悪い。(スーパー、中小企業)
- 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、冠婚葬祭や旅行が再開したことから、衣料品が好調だった。(百貨店)
- 5類移行により行楽需要が高まったことから、おにぎりやパンが売れている。カウンター商品は新商品の展開やセールにより好調。(コンビニエンスストア、大企業)
- 値上げを抑えている飲食料品を中心に、売上げを伸ばしている。外出機会の増加により、化粧品のポイントメイクも動き出している。(ドラッグストア、大企業)
- テレビやパソコンは巣ごもり需要の反動で低調。消費の対象が旅行や衣服に向いている。(家電量販店、大企業)
- 半導体不足の緩和により受注残の納車が進んでいる。(自動車販売、中小企業)
- 感染症の影響という面は全く感じられないところまで来ている。旅行支援の有無にかかわらず申込みがあるなど、これまで我慢していた分の需要がみられ、国内の個人旅行を中心に活況となっている。(旅行代理店、中堅企業)
- 国内旅行を中心にマインドも上昇傾向にある。社員旅行も数十人規模で動き出している。(旅行代理店、中堅企業)
- 家族や友人との旅行が増加しており、旅行需要は回復してきている。(宿泊、中小企業)
- 人流・来店客数は確実に戻ってきている。週末はコロナ禍前と遜色なく、平日も1次会はコロナ禍前の水準に戻ってきている。(飲食、中小企業)

■ 生産活動 「一進一退の状況にある」

電子部品・デバイスは自動車向けが堅調となっているものの、スマートフォンやパソコン向けで海外経済の減速等を背景に弱含んでいる。輸送機械は供給制約に緩和の動きがみられ、持ち直している。生産用機械は海外の半導体メーカーにおける設備投資需要の落ち着きから、弱含んでいる。このように、生産活動は、一進一退の状況にある。

- 電気自動車(EV)向けが需要旺盛で好調。米国向けだけでなく、中国向けなどでも受注・生産が増えてきている。(電子部品・デバイス、中堅企業)
- 世界経済の先行き不透明感から、スマートフォンやパソコン向けは厳しい状況が続いており、弾力的に生産量を調整している。データセンター向けも、企業の投資抑制の動きが継続している。(電子部品・デバイス、中小企業)
- 多くの受注残を抱えてきた中で、半導体不足の影響が緩和しており、生産量は増加傾向にある。(輸送機械、大企業)
- 引き続きメモリを中心とした半導体生産は在庫調整局面にあり、それに伴い製造装置への設備投資も減らすといった流れが継続している。(生産用機械、中堅企業)

■ 雇用情勢 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率は、足下ではおおむね横ばいとなっている。新規求人数は、人流回復に伴いサービス関連の業種では増加しているものの、製造業、建設業中心に減少している。このように、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

- 5類移行や観光シーズン到来による人流回復に伴い、宿泊業・飲食サービス業では求人が増加している。(公的機関)
- 製造業では、人手不足は深刻化しているものの、原材料価格や光熱費の高騰、人件費の上昇等により、求人を減らす動きがみられる。(公的機関)

- **設備投資** 「5年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年4-6月期
 - 製造業では、輸送用機械等で減少見込みとなっているものの、情報通信機械、金属等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
 - 非製造業では、電気・ガス・水道等で減少見込みとなっているものの、金融・保険、農林水産等で増加見込みとなっていることから、全体では増加見込みとなっている。
- 増産対応のための投資により増加する見込みとなっている。(情報通信機械、中堅企業)
 - 新紙幣対応に向けた投資から増加する見込みとなっている。(金融・保険、大企業)
- **企業収益** 「5年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年4-6月期
 - 製造業では、化学で黒字転化見込みとなっているものの、非鉄金属、情報通信機械等で減益見込みとなっていることから、全体では減益見込みとなっている。
 - 非製造業では、専門・技術サービス等で減益見込みとなっているものの、小売等で増益見込み、運輸・郵便で黒字転化見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。
 - **企業の景況感** 「『下降』超幅が縮小」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」5年4-6月期
 - 現状(5年4~6月期)は「下降」超幅が縮小している。先行きは「上昇」超に転じる見通しとなっている。
 - **住宅建設** 「前年を下回っている」
 - 新設住宅着工戸数をみると、持家、貸家、分譲いずれも前年を下回っている。
 - **公共事業** 「前年度を下回っている」
 - 前払金保証請負金額は、県、その他等で前年度を下回っており、全体では前年度を下回っている。
 - **消費者物価** 「前年を上回っている」
 - **金融** 「貸出金残高は、前年を上回っている」
 - **企業倒産** 「件数、負債総額とも前年を上回っている」

3. 各県の総括判断

	前回 (5年4月判断)	今回 (5年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
宮城県	緩やかに持ち直している	持ち直している		個人消費は持ち直しており、生産活動は一進一退の状況にある。雇用情勢は緩やかに持ち直している。
青森県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している		個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は一進一退の状況にある。雇用情勢は緩やかに持ち直しつつある。
岩手県	持ち直しつつある	持ち直しつつある		個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は持ち直しつつある。
秋田県	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている		個人消費は持ち直しつつあり、生産活動は回復に向けた動きに一服感がみられる。雇用情勢は横ばいの状況にある。
山形県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している		個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動は持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は持ち直している。
福島県	持ち直しつつある	持ち直しつつある		個人消費は持ち直しつつあり、生産活動は持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は緩やかに持ち直している。